

理数科通信

岩手県立水沢高等学校
第14号 令和5年1月11日 発行

第66回日本学生科学賞・岩手県審査表彰式

1月11日（水）に第66回日本学生科学賞岩手県審査表彰式が水沢高校で行われました。本校では毎年、日本学生科学賞に3年理数科の生徒が2年生の4月から取り組んだ課題研究の成果を応募しています。

日本学生科学賞（読売新聞社主催）の審査方法は次のようになっています。理科部門は10月に都道府県審査を行い、高校の部で最優秀賞となった3つの研究が11月の中央審査（全国審査）に進みます。数学部門は都道府県審査を行わずに10月に中央予備審査を行い、通過すると11月の中央審査に進みます。

本校から数学部門に3つの研究を応募しましたが、いずれも予備審査を通過することはできませんでした。理科部門には7つの研究を応募し、そのうち、1つが岩手県審査で最優秀賞を受賞して中央審査に進みました。しかし、中央審査で入賞することはできませんでした。最優秀賞を受賞したのは、界面活性剤の1つであるラウリル硫酸ナトリウムを材料にした「洗剤の起泡性をより良くする方法」という研究で、研究を行った生徒は3年理数科の小野寺竜一さん、佐藤風花さん、2年理数科の及川和奏さん、駒林瑠菜さんの4名です。

研究は昨年度の4月から当時2年生だった小野寺さんと佐藤さんの二人でスタートしました。6月からは1年生だった及川さんと駒林さんが加わり4人で実験を行い、研究を進めました。研究の途中では、山形大学工学部化学・バイオ工学科の野々村美宗教授の研究室を訪問し、指導・助言をいただきながら研究を進めました。

現在、2年理数科に在籍している及川さんと駒林さんは、別の界面活性剤を材料にした課題研究に取り組んでいます。



駒林さん

小野寺さん

佐藤さん

及川さん

